

事業名

地域の宝を育てる応援団 -SAKURA ネットワーク-

目標

～15歳の春に豊かな花を咲かせるための協働～**1. 取組の視点**

全ての幼児・児童・生徒に15年間の連続した「学び」を保障するために、地域の力を活用しながら学校園の教育活動を支援する。また、学校園を核とした地域コミュニティの活性化と、地域の教育力を高めるための協働をより一層進める。

2. 取組の概要**【SAKURA 夢フェスタ 1st】**

平成22年8月1日、都南中学校区の11学校園の園児・児童・生徒とその保護者が集まり、学



校支援ボランティアの手による地域合同行事を開催した。都南

中学校吹奏楽部の演奏により幕が開き、「世界一のパフォーマンス」ジャグリングショーの観覧。続いて、5小学校区別対抗の綱引き大会も企画されていて、小学校（男女別）の部、中学校（男女別）の部、一般の部毎での対戦があった。

SAKURA ネットワークのコーディネーターが実行委員会を組織し、行事の企画から当日の運営に当たった。開催までの綿密で周到な準備と万全の

救護体制で安心してフェスタは進んでいった。最後には、中央に大きく「夢」と



描かれた5m四方のキャンバスに、参加者一人ひとりの思いを集めた「夢の寄せ書き」を完成させた。

【地域みんなの美術館「都南の森」】

生徒昇降口を活用したフロアスペースに地域住民の手による



芸術作品（絵画・書・ちぎり絵・陶芸・彫刻・写真など）を募集展示し、生徒・保護者そして地域住民に鑑賞していただいている。展示内容の企画から作品募集、そして開催中のお世話まで、すべて「楽芸員（学校支援ボランティア）」による運



営がなされている。地域住民の”財産”であるべき学校を地域に開き、地域と

学校が一体となって「よりよい学校づくり」を進めるための特色のある取組となっている。

3. 成果と課題

校区の幼稚園・小学校・中学校の各学校園と地域との協働により、子どもたちの「15年間の連続した学びの保障」を図り、自分の生まれ育った地域を誇りに感じ、地域を愛し、地域の役に立てる人間の育成を目標に支援活動を進めている。

今後さらに、地域コミュニティの核としての学校園の存在を地域全体で再認識し、家庭や地域の教育力を高めていくこの取組と「協働の営み」の体制づくりをより一層進めていく。

事業名

学びと心身を育む夢共育の実現

目標

学び合い、高め合う学級集団を礎とした「新しい学びのスタイル」の定着と、基本的な生活習慣の確立と体力向上および規範意識の向上をめざす**1. 取組の視点**

学校が生徒に、そして保護者や地域の方々からも信頼されるためには、「安心・安全で力のある学校」でなければならない。また、それを実現するために最も大切な事は「全ての生徒の学びを保障すること」である。校区5小学校との連携を大切にするとともに、生徒が自ら学び考える力を向上させるため、教師の授業力の向上および保護者・家庭の理解と協力を得るための取組を展開する。そこで、地域の支援（SAKURA ネットワーク）を得ながら教育環境の整備に努める。

2. 取組の概要**【学習支援活動】**

家庭科の授業に、地域にある企業から、住宅関連の技術者をゲストティチャーとして迎え、「自分たちが考えた快適な住宅（夢ハウス）を設計する時間」を持った。新しい学びのスタイルを本格的に取り入れた授業展開の中に、プロのアドバイスに真剣に聴き入る生徒たちの姿が見られた。

**【面接練習】**

中学校3年生の進路学習の一つとして、面接試験の模擬練習の面接官に公募した地域の方々を招いた。地域の方による面接の指導で、生徒たちにとっては緊張感があり、実践的で効果のある機会になった。また、参加していただいた地域の方

も、「自分の特性を発揮する場になったり、良い学習の場になったりした。」と感想を述べられ、双方向により取組になった。

【地域みんなの美術館「都南の森」】

生徒昇降口を活用したフロアスペースに地域住民の手による芸

術作品（絵画・書・ちぎり絵・陶芸・彫刻・写真など）を募集展示し、生徒・保護者そして地域住民に鑑賞していただいている。地域住民の”財産”であるべき学校を地域に開き、地域と学校が一体となって「よりよい学校づくり」を進めるための特色のある取組となっている。

3. 成果と課題

「新しい学びのスタイル」の導入により、一方的な学習から、自らが考えを深め、自ら課題を克服するという姿勢が生徒に見られるようになった。また、このスタイルを定着させるために、多くの教員が教材研究や先進校の取組に学ぼうとする積極的な姿を見せるようになってきた。また、保護者や家庭の理解と協力、そして地域力による学校支援にも一定の進展が見られるようになった。

今後は、学校改善のための支援内容と地域力とのマッチングおよびこの取組を持続発展させていくための自立したしくみの整備が必要不可欠となってきている。

事業名

「子ども力」育成プロジェクト

目標

関わり合いを通して豊かな学びを育む

1. 取組の視点

本校では、学習規律の確立に向けた取組とともに、わかる授業に向けての授業を中心とした研究を進めてきた。しかし、各診断テストの結果からは、依然厳しい学力実態が存在していることも事実である。また、自尊感情についても、自己肯定感の低さが目立っているという実態が調査結果からも見られた。テーマにある「子ども力」とは、未来に向けての夢やあこがれを持って、その子なりに発揮できる力である。そこで、多くの人たちとの関わり合いを通して、学校や地域の生活や活動の中で育てられるような事業の計画・活動を通して、自分に自信を持ち、将来に向けての希望をもって生き生きと活動できる子を育てていきたいと考えた。



2. 取組の概要

地域・学校が協働し、子どもたちが多くの人たちと関わり合いをもち「熱中する力」「好奇心を抱く力」の育成を進めるため以下の事業を計画し、地域とともに取り組みを進めた。

(1) 東市まるごと子どもフェスタの開催

子どもたちの健全育成を目指して、校区社会福祉協議会が中心となり、PTA はじめ多くの団体が参加し、9月12日に小学校で開催し多くの児童保護者が参加した。

(2) 校内環境整備計画

昨年度より花壇の整備や花いっぱい運動を計画し地域の方々にも協力していただいた。今年度は、校舎内の廊下の塗装も汚れが目立ってきていたので、ペンキ塗りにも



協力をお願いし真新しい校舎に変身し。

(3) 学力向上に向けた授業作り研修

校内研修を持ち、集団作りについての研修をはじめ、教科指導の方法や教材作り・学習プリント作成・授業内容についての研修、キャリア教育の研修など深めた。

(4) 教育活動への地域ボランティアの参加

読書(読み聞かせ)活動として11月に「絵本のひろば」を開催し、絵本ボランティアさんと共に楽しく読書の時間を過ごした。また、万年青年クラブのみなさんは「昔遊びの名人さん」として、コマ回しやあやとり遊びを子どもたちに教えてくださった。

3. 成果と課題

学校地域支援本部や夢・教育プラン協議会において話し合いを持ち、学校と地域との連携・協働による事業計画を立て実施し、数多くの計画に地域の方々が参画してくださった。しかし、参加してくださるボランティアの方々が固定化しており、人材が広がりにくい現状もあり、今後多くの方々の参加に向けた事業の展開を考えていく必要があると考える。

事業名

今日が楽しくて、明日が待ち遠しい学校

目標

楽しそう（予感）楽しい（体感）楽しかった（実感）という連続性のある教育活動を地域とともに構築し、自尊感情の醸成を図る**1. 取組の視点**

本校が掲げる理想の学校像の達成には、楽しそう（予感）楽しい（体感）楽しかった（実感）の連続性のある教育活動の展開が不可欠であると考えている。そこで、本校では「楽しい」を『楽しい（たのたのしい）』と『苦楽しい（くるたのしい）』の二つに分類できると考えた。特に後者の感情は、他者との良好な関係性において育つものであると定義した。幸い、本校区には学校を支援しようという志をお持ちの住民が多いことから、地域住民とのかかわりを中心とした教育活動を進めることとした。

2. 取組の概要

本校では、すでに「夢・教育プラン」や「学校支援地域本部事業」等で地域住民や保護者ボランティアが協働して子育て支援や学校支援を行う風土を備え、地域の会合などで、折に触れ『子どもは辰市の宝』であると話題にのぼる。このような住民意識を背景に、これまで継続的に実施されてきた事業を大切にしながら、学校・地域・保護者が思い描く理想の子ども像に向けて歩を同じくした。



取組は、子どもの命を大切にすること、教育環境（ハード面）の改善、学習への支援の三つに大

別し実施した。

子どもの命を大切にする取組としては、毎日の登下校における見守り活動を中心に、年度初めには、新入生の下校付添活動、青色パトロールによる巡視活動などを実施した。

教育環境の改善に向けては、通年的実施する植栽活動と夏季休業中に行ったペンキ塗り作業を計画し実施した。

学習支援では、家庭科（運針指導、調理実習）などの補助や社会科・生活科（昔の農業体験や昔遊び）学校行事（千本餅つき、健康かけ足立哨）などにゲストティーチャーとして参加していただいた。

3. 成果と課題

良識ある地域住民の積極的な参加は、成果として、教育活動が円滑に且つ効率的に展開できたことだけに止まらず、ボランティア・児童相互に活力が漲り、積極性が育まれたように思われる。2月末には、地域の方々に1年間のお礼をしようということで、「感謝の集い」を実施した。児童手作りの品が、各ボランティアの手に渡り、これまで以上に心の交流が図られたように思える。もちろん、地域の方々には、次年度に向けてのエネルギーとなったことを申し添え報告とする。



事業名

やさしく、かしこく、力もちの明治っ子

目標

”花・おはなし・元気” いっぱいの学校で「コミュニケーション力・読書意欲・体力の向上」を目指す

1. 取組の視点

花いっぱい潤いある学校環境の下、研究主題「豊かな心を持ち、いきいきと活動する子どもの育成」を設定し、「コミュニケーション力・読書意欲・体力の向上」を目指した取組を進めてきた。

(1) 学校図書データベース化

地域ボランティアによる読み聞かせに触発されたり、「読む・書く・話す」学習活動を深めたりして、学校図書館を活用することが多いため、蔵書の充実とともに学校図書の管理・運営を円滑に行い、児童の読書意欲向上に繋げた。

(2) 外国語活動本格実施前の諸準備

「ハローイングリッシュ」を基盤として、近隣の外部講師協力の下、年間指導計画・教材作成、指導力向上に向けた研修等に取り組んだ。



(3) 体育や外遊びの充実による体力向上

スポーツテスト等の結果(運動好きだが、持久力など体力面で多い課題)から発達段階に応じた継続的な運動を工夫したり、必要な器具を準備したりして体力向上に繋げた。

2. 取組の概要

花いっぱいの学校

児童が集中して学習に取り組むには、落ち着いた潤いのある学校環境を整備しなければならない。そこで、地域の方や教職員とともに、児童が



主体的に環境整備に関わっていくために「花いっぱいの学校」を目指して栽培活動に取り組んだ。

おはなし いっぱいの学校

平成22年度の夏期休業中に蔵書の計画的な整理作業を進め、データベース化を実施した。

2学期からは、パソコンでの管理(貸し出し、読書傾向把握等)を進め、教員の指導の下、児童も操作できることを目指して運用している。

外国語活動では、必要な教材を購入したり教職員が製作したりした。また、指導力向上に向けた基礎的な職員研修を計画的に実施し、2学期以降の実践に生かす取組を継続している。

元気いっぱいの学校

ランニングコースのラインテープの更新作業を、地域の方の協力も得ながら、夏期休業中に取り組み、運動会に向けた練習・本番を、安全に効果的に実施できました。購入した用具(長縄、ボール等)は体育科学習や外遊びで活用している。

3. 成果と課題

環境整備を計画的に実施することで、四季折々の草花等の栽培活動を継続できた。

学校図書のデータベース化により、管理・運営が円滑に行えるようになった。

外国語活動の本格実施や体力向上の取組の基本的な準備を整えることができた。

花・おはなし・元気いっぱいの学校づくりに向けハード・ソフト面の充実が必要である。

事業名

地域と共に、スクスク育て帯解っ子

目標

**地域と連携し、21世紀を自主的・創造的に拓いていく
心身ともにたくましい帯解っ子を育成する****1. 取組の視点**

本校は地域の方々の学校への感心も高く、学校教育に対して協力的な方が多数おられる。学習活動の中に地域学習を組み込み、米・野菜・花などの栽培活動や平和・人権・福祉などの聞き取り学習を通して、多くのことを学んでいる。

地域の方々をゲストティーチャーとして招き、地域について色々なことを学び、思いやりのある豊かな心を持つ帯解っ子を育成したい。

豊かな思いやりのある児童を育てるために、いちご・野菜・米・花を学級園・借り上げた田や畑・校内の各所で栽培し、物を作る苦労や収穫の喜びを体験した。また園児と共に、校章の水仙植えや餅つき大会などをして交流を深めている。

2. 取組の概要

本校区には学校教育に対して協力的で、児童を地域の宝と考えるくださる方々がたくさんおられる。学習活動の中に地域学習を組み込み、地域の方々をゲストティーチャーとして招き、地域について色々なことを学び、帯解文化の花を児童の心に咲かせていきたいと考えている。

目標達成のために、地域の人との交流活動に取り組んできました。敬老会や一人暮らしの高齢者の方に花の苗とメッセージカードをプレゼントに送った。また戦争体験・盲導犬・車椅子・在日外国人の方など様々な方をゲストティーチャーに招き、平和の大切さや障がいを持たされた方の



苦労や願いを聞いた。そして、1・2年の児童は8つのコーナーに分かれて、20人の万年青年クラブの方々から昔遊びを教えて頂き、昔の遊びの技を体験した。また地域の色々な団体のお世話で餅つき大会を開いていただいた。千本杵で餅をつき、きな粉やおすましでおいしくいただいた。園児と児童との交流も深まった。

栽培活動では「今まで野菜が嫌いだったのに、学校で作った野菜は食べている。良い経験ですね。」という保護者の声も聞かれた。野菜を育てる事は、食育教育の一環としての成果があった。また、一人一鉢運動で花や野菜を育てることで、しっかり観察して大切に思う心が育ち、豊かな感性を育てることに大いに役立った。

**3. 成果と課題**

地域の様々な方との交流活動は、児童にとって知見と多くの人とのつながりを広げ、豊かな感性を育てることになった。また栽培活動を通して、花や野菜をしっかり観察し大切に思う心が育ってきた。芽が出たことを楽しみ、花が咲いたことを素直に喜べる感性を育てている。

教育活動の様々な場面で、地域の方々に支えられながら児童は育っている。このように学校だけではできない取り組みに参加や協力していただくことで、児童の学びはさらに深まる。地域の方この気持ちに応え、前向きに実践していきたい。

事業名 **輝け 精華**

目標 **さまざまな出会いや体験を通して、仲間を大切にし、地域を愛する豊かな心を育てる**

1. 取組の視点

精華小学校は、全校児童21人の小規模校です。日頃から学校生活のあらゆる場面で縦割り活動を取り入れ、異年齢の集団の中で人間関係を築く取組をしている。学校行事、児童会活動などで自分の意見を述べる場、他校生との交流をする場、地域の方々にいろいろな事を教えていただく場など、さまざまな体験ができるよう計画した。その中でコミュニケーション力や自己表現力を育てるとともに、多くの人々との出会いを通して、仲間を大切にし、地域を愛する豊かな心を育てていきたいと考えた。

2. 取組の概要

7月には、書店の方に来ていただき、本に親しむ会を開いた。たくさんの本の中から児童が興味を持った本を選び、図書室で楽しく読んだ。

9月下旬には精華劇場を開催した。今年度は奈良教育大学のアンサンブルの演奏を聴いた。



11月には、干柿作りをした。地域の万年青年クラブの方々にナイフの使い方や



柿の皮のむき方を教えていただき、一緒に約5000個の渋柿の皮をむいた。むいた柿を10個ずつ串に刺して、各教室の窓の外に干し、12月中旬に、精華地区の全戸に子どもの手紙と共に配った。

2月には卒業を祝うお茶会を地域でお世話になった方々を招待して開いた。日本の伝統的なお茶を通して、おもてなしの心、心配り、感謝する心など「お茶の心」を地域におられる茶道の先生方に教えていただいた。午後からは教えていただいた作法で、6年生が点てたお茶を下級生に味わってもらった。



杏南町の

子ども会と精華小学校の高学年の児童による交流会を長年行っている。夏休みには、辰市人権文化センターでカレーライスを一緒に作って食べた。また、他校生とグループを作って室内オリエンテーリングを行った。冬には精華小学校で餅つきやお茶会を行うなど、交流の場を設けている。

3. 成果と課題

他校生との交流を通して、仲間と交流することの楽しさ、仲間の大切さを感じることができた。また、地域の方々にたくさんのことを教えていただく中で、地域のよさに気づき、自然や伝統を大切に守っていこうとする気持ちが強く感じられるようになってきた。出会いを通して、自分の思いを自分の言葉で伝えることができるようになってきている。

今後もさまざまな体験を通して、児童の豊かな心を育てる取り組みを続けたい。

事業名

地域とともに、いきいきかがやく、東市の星

目標

地域の方々とのふれ合いの中で、進んで活動し、たくましく生きる力を育む

1. 取組の視点

本園は奈良市内の南東部に位置し、周囲には、田畑、森林も広がり、自然豊かな農業・住宅混在地域で、核家族・祖父母同居・数年に一度転勤という官舎居住と人数は少ないが家庭環境は多様である。年少5名、年長5名、計10名という家族的な雰囲気の小集団の中、子どもたちはのびのびと過ごし、一人一人の願いが叶えられるきめ細かな保育を行っている。一方、園児の集いや、三園交流などでは、人数に圧倒され萎縮してしまう場面もある。地域の方や他園との交流、未就園児との交流や活動を通して、心豊かで、強くたくましく生きる園児を育てていった。

2. 取組の概要

①地域の方々との交流

地域の方々とのふれあいサロンや、美化活動、敬老会や人権文化フェスタなど地域行事への参加、七夕祭、運動会、もちつき大会、生活発表会、ひな祭りなど園行事への地域の方々の参加、地域の畑をお借りしての芋掘りや柿狩り等、多くの人とのふれ合いの中で、進んで活動し、たくましく生きる力を育てていった。



②未就園児保育

地域の方々の支援のもと、未就園児の親子登園「ひよこ組」を通じて、保護者同士や保護者と地



域・幼稚園、園児と未就園児など幅広い交流体験の場を作り、園児の体験活動と子育て支援の充実を図った。

③環境美化

心豊しくたくましく生きる力を育み、豊



かな創造力を培うためには環境美化が大切と考え、施設設備の改修、ペンキ塗り、花壇の改修を地域の方や保護者の力を借りて行い、花壇には常に四季折々の草花が咲き、園舎はところどころ鮮



やかな色彩で色どられ、園児も毎日登園するのが楽しみになる雰囲気作りに努めた。

3. 成果と課題

地域の方々とのふれ合いの中で、進んで活動し、たくましく生きる力を育み、未就園児の親子登園を通じて、園児や保護者・地域との幅広い交流で、感性豊かな園児の育成がはかれた。

施設設備の改修には人の力と経費を伴うが、本事業で地域の協力や経費計上ができ、この一年で園舎の雰囲気が大きく変わり。「幼稚園が変わった」「きれいになった」という言葉をいただいた。

事業名

みんなの笑顔がつながる楽しい幼稚園

目標

親子の愛着形成を確かなものにし、心豊かな幼児の育成を目指す

1. 取組の視点

本園でも核家族化が進む中、保護者はわが子の心身ともに健全な成長を強く願いながらも、子育てに戸惑ったり自信が持てなかったりして、気持ちや心にゆとりのない生活を送っている。

そこで、親子ともに地域の人との活動や、親子活動を通して親子愛着形成を確かなものにするとともに、地域や周りの人たちと親しみや信頼の気持ちで互いにつながり、幼児の心も豊かに育つことを願い本事業に取り組んだ。

2. 取組の概要

みんながつながる環境づくりとして、年少組の親子活動では“親子花瓶作り”を行い、園庭の花壇の好きな花を親子で摘んで飾った。年長組の“絵本づくり”では親子で楽しく会話しながら世界で一つの絵本を作り上げ、作品は園内作品展に展示した。また、年少、年長共通の親子活動として月一回“親子絵本の日”や、年2回“お話の会”



を行ったり、花壇に来春、開花する花の苗や球根植えを行ったりした。こうした活動を重ねるごとに、他の親子とも親しく交流する姿が見られるようになった。11月の土曜参観では地域の方の得意分野で協力を得て“親子紙制作”を行った。この紙制作では、父親や兄弟姉妹も参加し、家族全員で紙制作に取り組んでいる姿も見られた。こうした親子活動は未就園児親子登園『ひよこ組』対象においても実施し、12月には人形劇を在園児と一緒に鑑賞することで、未就園児親子の園生活への期待も一層、膨らんだ。



を行ったり、花壇に来春、開花する花の苗や球根植えを行ったりした。こうした活動を重ねるごとに、他の親子とも親しく交流する姿が見られるようになった。11月の土曜参観では地域の方の得意分野で協力を得て“親子紙制作”を行った。この紙制作では、父親や兄弟姉妹も参加し、家族全員で紙制作に取り組んでいる姿も見られた。こうした親子活動は未就園児親子登園『ひよこ組』対象においても実施し、12月には人形劇を在園児と一緒に鑑賞することで、未就園児親子の園生活への期待も一層、膨らんだ。

地域の方との交流では、以前から地域の民生児童委員の方との交流を『ランラン広場』として年間計画に位置づけ行っている。今年度は幼児だけでなく保護者との交流の機会として、地域別懇談会に民生児童委員の方の参加のもと、2実施することができた。

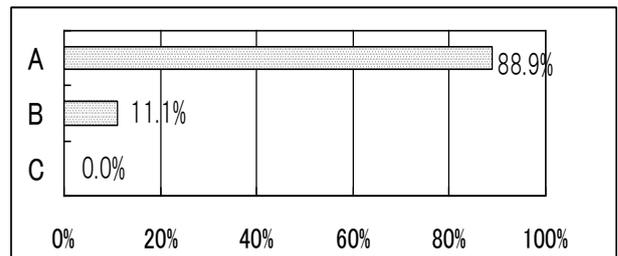
また、人とのかかわりの体験とともに人のかかわる上でのマナーや、人としての態度は幼児の豊かな心をはぐくむ為の基盤づくりとなるとの考えから、身体を動かす心地よさを感じるとともに、集団の規律や友達と気持ちや力を合わせてひとつのことをやり遂げる充実感や大切さを感じる活動としてマーチングを保育に取り入れ成果は運動会で披露した。



3. 成果と課題

成果として保護者対象のアンケートから『園の行事や活動は有意義である』との項目の集計結果は下記のグラフの通りである。

A そう思う B まあそう思う C あまり思わない



また、地域の方たちの幼稚園教育に対するの理解が一層、深まりこれまで以上に、地域の幼稚園として親しみの気持ちをもってくださるようになった。課題として、親子活動の意義を理解していても、参加することを負担に感じている保護者の姿もある。進んで参加できる活動内容の工夫が必要である。その為には、今後も地域の方の協力を得て、一層、園教育の充実を図っていきたい。

事業名

手をつなごう精華の輪

目標

人・物・植物等との様々な触れ合いを通して、地域の自然や人々を愛し、自ら活動する子を育てる

1. 取組の視点

園は周囲を山々や田畑に囲まれ、正暦寺や弘仁寺等の歴史的文化遺産も多くあり、四季折々の自然豊かな地域に立地している。園児5名という少人数がゆえに、他校園との交流を深め、未就園児や地域、各種団体の方々と園行事を通して、いろいろな人々とかかわる力をつけ、心身共に健全で地域の自然や人々を愛し、主体的に活動する子どもを育てたいと、取り組みの視点をあげた。

- ① 人、物、動植物との触れ合いを通して、自ら活動する子を育てる。
- ② 多くの子ども達に出会わせ、心身を育てる。
- ③ 地域の自然、人々を愛する子どもを育てる。
- ④ 英語や絵本に親しみ、豊かな情操を培う。

2. 取組の概要

- ① 未就園児や地域の子育て支援、各種団体の



方々との交流では、地域の方に『餅花』の由来や作り方を教えていただいた。柳の枝や餅米を準備していただき、お家の方と一緒に紅白のお餅を小さく丸めて枝につけていくと、お花のようになった。また、お正月前でもあり「縁起物なので玄関や床の間に飾ります」と喜ばれた。

② 帯解幼や精華小との交流を通して、同年齢や異年齢の沢山の友達とサッカーや玉入れ、ゲームなど、少人数ではできない遊びや活動をして、集団活動を学んだ。また、園の藤やアケビ

の鶴で蔓で作ったリースに、地域散策で拾った木の実をつけて、一緒にリース作りも楽しんだ。



③ 地域の方の田んぼで田植えや稲刈りを教わった。「田んぼの中、ポニョポニョして気持ちいい」と土の感触を感じたり、秋には大きく育った稲を鎌で刈り方を教わったりして、農作業を体験した。また、お正月にその餅米でお餅やお雑煮にさせていただき、食べ物のルートや感謝していただくことを学んだ。

④ 『絵本の読み聞かせ』や『ハローキッズ』では、それぞれの先生に定期的にいろんな絵本を声色を変えて楽しく読んでもらったり、外国の遊びや歌、ゲームを楽しんだりして絵本や英語に興味をもって親しんでいる。回数を重ねる毎に、先生と積極的に教わったことを英語で元氣よく話すようになってきた。

3. 成果と課題

地域の子育て支援や各種団体の方々にいろいろなことを教わり、体験させてもらうことで、興味関心を広げ、親子で楽しさを共有できた。

地域で直接体験をさせてもらい、地域の方に親しみをもち、労働の大切さを学んだ。

他校園との交流で沢山の友達とかかわる楽しさを知り、多種多様な経験や感動体験を積み重ね心身共に育ってきた。今後も、様々な人と触れ合い、自ら活動できる子どもを育てていきたい。

事業名

ふれあいいっぱい辰市パワー

目標

地域、家庭の連携を基盤に子育てを楽しみ豊かな心を育めるような環境や子育て支援の充実を図る。

1. 取組の視点

子どもたちを取り巻く環境が大きく変わって
いく中、本園では、地域社会の人々の力を保育内
容に位置づけ、子どもと親の育ちを地域全体で温
かく支え、子どもの健やかな成長を目指している。
また、幼稚園の体験を家庭や地域と連携して進め、
活動の輪を広げ、豊かな交流を通して自他の良さ
や持ち味を実感し、生きる力を身につけていくこ
とを願っている。そこで、年間を通して、『親子
栽培』『安全指導・環境整備』『親子ふれあい活動』
『地域ふれあい活動』など豊かな体験を通して、
子育て支援の拠点とした幼稚園づくりの実現に
向けて取り組むことにした。

2. 取組みの概要

○栽培体験から食べる体験へ

地域の方の協力を得て、年間を通して親子栽
培を実施した。土作り、種まき、苗植えを通し
て育てる楽しさ、育つ不思議さなどを感じ収穫
への期待が高まるよう環境も工夫した。「食」
にかかわる楽しい体験は、親子の会話を促し、
食生活の習慣、感謝の気持ちなど家庭の教育力
の向上につながった。



○安全指導・環境整備

地域の方と共に安全指導や園内の環境作り
に取り組んだ。環境安全マップ作成では安全面
を配慮したアイデアをいただいたり、安全指
導では一斉降園を実施し安全に対する意識を
持続する大切さを再確認したりした。



○地域ふれあい活動

・昔遊び会 地域の方々に
すごろく遊びや缶ぽっくり、竹とんぼ作りを教わり



一緒に作って遊び、楽しいひとときとなった。

・夕涼み会 地域の方や卒園児を招き、七夕の
伝統行事にふれ、夕涼み会を実施した。都南中
学校の吹奏楽の演奏を聴いたり、伝統の辰市音
頭を踊ったりして地域の輪を広げた。

・地域敬老会 辰市校区の
敬老会のオープニングに参
加し歌ったり踊ったりして
お祝いをした。笑顔がいっ
ぱいでわくわくする体験となった。



・昔話会 手作りの大型紙芝居を年間12回、
地域の方に見せていただいた。優しい口調の語
りに引き込まれ、毎回楽しんだ。

○親子ふれあい活動

・囲碁教室 地域の方の協力で月2回囲碁教室
を実施しました。挨拶をして始めることやルー
ルの大切さがわかり、親子で挑戦した。

・茶道教室 日本の伝統文化
にふれ、ゆったりとした雰囲気
の中で礼儀やおもてなし
の心を親子で学び合った。



3. 成果と課題

地域の方々の協力で親子の様々な体験がで
き、幼稚園が活気づいた。地域の人とつながり、
保護者同士のつながりも広がり、心が弾む潤い
の場となり、充実した幼稚園生活を送る基盤と
なった。この姿は、幼稚園が目指しているより
良い子育て支援の取組みの成果の現れと感じ
ている。今後さらに充実した取組みになるよう
連携を図っていく。

事業名

地域とともにみんなで育ちあい、豊かな感性を培う楽しい幼稚園

目標

子どもも親も地域もともに育ちあい、豊かな感性を培う楽しい幼稚園を目指す

1. 取組の視点

本園は、地域の教育力が高く、園活動に協力的である。最近では特に少子化が進み、園児が少なくなっているが、園児は元気で明るく、親子ともに育ちあう輪が広がっている。そこで、さらなる保護者の輪を広げ、幼児教育の大切さを理解するように、子育て・親育て・地域育ての拠点としての情報発信園・開かれた園・子育て支援の充実園として、みんなで育ちあい、豊かな感性を培う楽しい幼稚園づくりに取り組んだ。

2. 取組の概要

地域の教育力を活かすことを念頭に、全保護者・地域の方特に民生児童委員の皆さんの大きな協力の下、年間計画に基づき、絵本等の読み聞かせと貸し出しを行った。また、未就園児親子登園



ひよこ組を実施した。地域の触れ合いを深めるために、サツマイモの植え付け、ジャガイモ掘り、タマネギ掘り、生け花教室、押し花教室、各種芸術鑑賞や植物を育てる喜びを味わう親子栽培、家族の保育参加を行った。また、地域の方を招待しての運動会やもちつき大会、近隣養護施設への訪問活動、ひよこ組との楽しいお遊びやクリスマス会等々数多く実施した。

特に、次の2点では大きな成果が見られました。まず運動用具補充ができたこと。これは、園庭等



での保育活動のすべてにおいて、子どもたちの意欲が高まり、積極的な取り組み方と能力の向上があった。次に、本園に不可欠の近隣幼稚園との交流に、本事業のおかげでタクシーでの移送が可能になり、交流時間が大幅に増え、保育内容とその成果に非常に大きな成果があった。

3. 成果と課題

なかなか購入できない物が購入でき、特にトンネルは長年の懸案だったので、子どもだけでなく、保護者・地域からも喜ばれ、保育等にとっても役立った。また新たな運動用具は、子どもの興味・関心・意欲付けにつながり、大きな成果を上げた。

さらに、本園には欠かせない他園との交流時、移送手段としてタクシーに利用が可能になったことにより、交流時間が大幅に増え、保育の向上に成果をあげた。また、今後はより計画的・効率的な事業展開が必要となり、それが求められると考える。